



Title	業績リスト(2002)
Author(s)	
Citation	大阪大学看護学雑誌. 2003, 9(1), p. 60-75
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/56846">https://hdl.handle.net/11094/56846</a>
rights	©大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 業績リスト (2002)

### 基礎看護学講座

#### 1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

##### (原著)

- 1) Murata, K., Ohno, Y., Kasahara, S., Ishii, A., Kitamura, Y., Sugiyama, H. (2001). The Construction of the Population Dynamic Model for the Estimation of the Total Medical Care Needs in Japan. Japan Hospitals, 20, 35-39.
- 2) Tanisada, K., Teshima, T., Ohno, Y., Inoue, T., Abe, M., Ikeda, H., Owen, J. B., Hanks, G. E., Masuda, K., Honke, Y., the Japanese PCS' 92-94 Working Group. (2002). Patterns of Care Study Quantitative evaluation of the quality of radio therapy in Japan. Cancer, 95 (1), 164-171.
- 3) Artes, P. H., Iwase, A., Ohno, Y., Kitazawa, Y., Chauhan, B. C. (2002). Properties of Perimetric Threshold Estimates from Full Threshold, SITA Standard, and SITA Fast Strategies. Investigative Ophthalmology and Visual Science, 43(8), 2654-2659.
- 4) 笠原聡子, 大野ゆう子, 菅生綾子 (2002). 外来患者の服薬アドヒアランスに関する調査報告. 日本公衆衛生雑誌, 49(12), 1259-1267.

##### (総説)

- 1) 阿曾洋子 (2002). 身体侵襲を伴う看護技術の教育を考える. 看護展望, 27(10), 17-22.
- 2) 阿曾洋子 (2002). 高齢者の褥瘡と看護ケア. 介護福祉 IV, 35-42.
- 3) 阿曾洋子 (2002). 特集: 高齢者と褥瘡—予防とケアの技法 在宅での褥瘡ケアの問題点. Geriatric Medicine (老年医学), 40(8), 1067-1073.
- 4) 矢野祐美子 (2002). 編入学を目指す人へ. 2003年度全国助産師・保健師・学校ガイド, 14-17.

##### (報告書)

- 1) 阿曾洋子, 矢野祐美子, 大巻悦子 他 4 名 (2002). 呼び寄せ高齢者が多い大阪府 T 町の老人クラブ会員の保健行動と QOL に関する実態調査. 大阪ガスグループ福祉財団研究・調査報告集, 15, 77-82.
- 2) 大野ゆう子, 中村隆, 門田守人, 大島明, 左近賢人, 永野浩昭, 津熊秀明, 味木和喜子, 長谷川敏彦, 柿川房子, 稲邑清也, 原内一, 堀正二, 彼末一之, 森田輝代, 東村昌代, 藤本春美, 水谷美代, 平河勝美, 笠原聡子, 村田加奈子, 王靈芝, 中村亜紀, 石井豊恵, 北村有子, 杉山裕美, 雑賀公美子, 安間明日香, 伊藤ゆり, 改發友

紀子, 鳥本麻紀, 中川貴史 (2002). 長期療養時代の保健医療福祉システムの検討 (3). 統計数理研究所共同研究レポート 153.

- 3) 大野ゆう子, 杉山裕美, 大島明, 津熊秀明, 味木和喜子 (2002). ワイブル関数を用いた有病者数と実際の有病者数との比較. 厚生省がん研究助成金 地域がん登録の精度向上と活用に関する研究 (平成 13 年度報告書), 141-148.
- 4) 大野ゆう子, 村田加奈子, 雑賀公美子, 安間明日香 (2002). 地域ぐるみのたばこ対策評価のためのモニタリング方法の検討. 厚生科学研究費補助金健康科学総合研究事業「地域におけるたばこ対策とその評価に関する研究」 (主任研究者 大島明) 平成 13 年度研究報告書, 41-52.
- 5) 大野ゆう子, 稲邑清也, 武田裕, 高橋隆, 井上俊彦, 門田守人, 木村通男, 山口直人, 小山和伸 (2002). パス解析による病院運営合理化の研究—タイムスタディおよび治療法選択過程をもとにして. 文部省科学研究補助金研究成果報告書 (基盤研究(B) 平成 11 年度～13 年度 課題番号 11470500), 1-276.

#### 2. 単行本 (著書, 翻訳本)

- 1) 小笠原知枝, 江本愛子, 久米弥寿子 監訳 (2002). 事例に基づく看護診断の正確性の検証—看護診断のスキルアップのために (pp1-214). 東京: プレーン出版.
- 2) 久米弥寿子, 高橋育代: 訳 (2002). 人間の反応に対する診断の正確性: クリティカルシンキングの必要性. 小笠原知枝, 江本愛子, 久米弥寿子 監訳, 事例に基づく看護診断の正確性の検証—看護診断のスキルアップのために (pp26-40). 東京: プレーン出版.
- 3) 大河原千鶴子, 酒井一博編, 阿曾洋子, 石井賢俊 他 (2002). ヘルス・ケア・ワークを支える看護の人間工学, 107-108.

#### 3. 学会発表 (抄録, Proceeding)

- 1) 阿曾洋子 (2002). 調査票の作り方. 日本手術看護学会大阪地区研究発表集録第 42 回, 43-45.
- 2) 阿曾洋子, 矢野祐美子, 新田紀枝, 宮嶋正子, 張明美, 藤原恵美子, 原田俊子 (2002). 病院におけるステージ 3・4 の褥瘡患者に対するケアの実態と課題. 日本褥瘡学会誌, 4(2), 310.
- 3) 宮嶋正子, 阿曾洋子, 矢野祐美子, 新田紀枝, 張明美, 藤原恵美子, 原田俊子 (2002). 病院におけるステージ 3・4 の褥瘡患者に対する圧迫の管理と局所ケ

- アに関する実態分析. 日本褥瘡学会誌, 4(2), 311.
- 4) 松田未央, 阿曾洋子, 矢野祐美子, 菅野(前畑)夏子 (2002). 在宅高齢者の介護保険制度の認識から見た地域保健活動のあり方. 第33回日本看護学会抄録集—地域看護—, 13.
  - 5) 菅野(前畑)夏子, 阿曾洋子, 矢野祐美子(2002). 閉じこもり高齢者と日常生活状態との関連. 日本公衆衛生雑誌 (第61回日本公衆衛生学会総会抄録集), 49(10), 759.
  - 6) 菅野(前畑)夏子, 阿曾洋子, 矢野祐美子, 大巻悦子, 松田未央, 岩井由佳, 尾崎倫子(2002). 閉じこもり高齢者の心理的、社会的特徴と生活環境の特徴. 日本老年看護学会 (第7回学術集会), 51.
  - 7) 中村裕美子, 阿曾洋子(2002). 要介護高齢者のQOLと生命予後に関する研究. 日本老年看護学会 (第7回学術集会), 64.
  - 8) 谷浦葉子, 阿曾洋子(2002). 定量的脳波分析とVASによる清拭援助の安楽性の検証. 第22回日本看護科学学会学術集会, 103.
  - 9) 新田紀枝, 阿曾洋子(2002). 化学療法中の肺がん患者における足浴後マッサージが副交感神経系に及ぼす影響. 第22回日本看護科学学会学術集会, 449.
  - 10) 細見明代, 阿曾洋子, 矢野祐美子, 新田紀枝, 前畑夏子 (2002). 脳卒中による長期臥床高齢者の左右側臥位への体位変換が深部組織の血流量におよぼす影響. 第22回日本看護科学学会学術集会, 462.
  - 11) 山本敬子, 阿曾洋子(2002). 温熱生理学的観点からみた背部清拭に関する基礎的研究 (第一報) —フェイスタオルの含水量の違いの比較—. 第22回日本看護科学学会学術集会, 464.
  - 12) 細見明代, 阿曾洋子, 矢野祐美子, 新田紀枝 (2002). 長期臥床高齢者における左右側臥位への連続した体位変換が循環器系に及ぼす影響—健康高齢者との比較から—. 日本看護研究学会雑誌, 25(3), 381.
  - 13) Ohno, Y., Nakamura, T., Oshima, A., et al. (2002). AGE-PERIOD-COHORT ANALYSIS OF CANCER INCIDENCE RATES IN JAPAN USING THE BAYESIAN COHORT MODEL. IACR 2002 24th Annual Meeting of the International Association of Cancer Registries, 16.
  - 14) Ohno, Y., Nakamura, T., Murata, K., Hasegawa, T. (2002). Age-period-cohort Analysis of the Proportions of Hypertension Patients in Japan (1956–1995). China-Japan Medical Conference 2002, 332.
  - 15) Murata, K., Kaihatsu, Y., Ohno, Y., Sugiyama, H., Oshima, A., et al. (2002). THE ODDS RATIO ANALYSIS OF THE PROGNOSIS OF THE JAPANESE COLORECTUM CANCER DURING 1975–1999. IACR 2002 24th Annual Meeting of the International Association of Cancer Registries, P14.
  - 16) 北村有子, 大野ゆう子, 柿川房子, 長谷川敏彦(2002). 喉頭摘出者における療養経過シナリオ. 医療マネジメント学会雑誌 平成14年度学術総会号 (第4回医療マネジメント学会学術総会プログラム・抄録), 3(1), 214.
  - 17) 石井豊恵, 大野ゆう子, 笠原聡子, 北村有子, 中村亜紀, 稲邑清也, 原内一, 門田守人, 左近賢人, 藤本春美, 平河勝美(2002). Multilevel analysisによる患者状態情報項目の妥当性の検討. JAMI-NS 第3回看護情報研究会論文集・日本医療情報学会看護部会, 53–55.
  - 18) 北村有子, 大野ゆう子, 立花直子, 八尾正之, 大倉睦美, 中村幸枝, 小林万紗, こがま美砂, 嶋本喬(2002). 「健康日本21」の「休息」増進を担うための新しい睡眠ドックの試み(第二報)—ゲンキープ方式睡眠ドックの問題点と今後のあり方—. 日本公衆衛生雑誌(第61回日本公衆衛生学会総会抄録集), 49(10), 412.
  - 19) Numasaki, H., Harauchi, H., Okura, Y., Ishii, Atsue., Kasahara, S., Monden, M., Sakon, M., Bando, M., Ohno, Y., Inamura, K. (2002). Development of New Job Classification Method in Job Elements Analysis for the Purpose of Human Cost Calculation in Hospitals. Proceedings of The Third Korea-Japan Joint Meeting on Medical Physics and The Second Asia Oceania Congress of Medical Physics, 492–494.
  - 20) 雑賀公美子, 大野ゆう子, 中村隆, 笠原聡子, 杉山裕美, 大島明, 津熊秀明(2002). たばこ対策と肺がんの死亡率、罹患率の推移: 日本とオーストラリアのコウホート分析比較. 日本公衆衛生雑誌(第61回日本公衆衛生学会総会抄録集), 49(10), 454.
  - 21) 伊藤ゆり, 大野ゆう子, 笠原聡子, 村田加奈子, 中村亜紀(2002). 階層分析法 (AHP) を用いた医療機関選択の分析. 日本公衆衛生雑誌(第61回日本公衆衛生学会総会抄録集), 49(10), 322.
  - 22) 改發友紀子, 大野ゆう子, 笠原聡子, 杉山裕美, 大島明, 津熊秀明(2002). 多重ロジスティック回帰分析を用いた大腸がんの予後にかかわるリスクの分析. 日本公衆衛生雑誌(第61回日本公衆衛生学会総会抄録集), 49(10), 591.
  - 23) 飯村麻紀, 大野ゆう子, 笠原聡子(2002). 長期入院統合失調症患者のパーソナルスペース. 日本公衆衛生雑誌(第61回日本公衆衛生学会総会抄録集), 49(10), 815.

- 24)安間明日香, 大野ゆう子, 笠原聡子, 雑賀公美子, 彼末一之(2002). 神戸市における熱中症の発生と気温要因の分析. 日本公衆衛生雑誌(第61回日本公衆衛生学会総会抄録集), 49(10), 941.
- 25)Sugiyama,H.,Ohno,Y.,Saika,K.,Oshima,A.,Tsukuma,H.,Ajiki,W.(2002).The Proportion of Cured Cancer Patients in Osaka, Japan. The First APOCP Conference, 47.
- 26)Ooe,Y.,Furukawa,T.,Nagakura,T.,Ohno,Y(2002). Relation of Aging Population to Deaths from Malignant Neoplasm. China-Japan Medical Conference 2002, 336.
- 27)Nakamura,A.,Ohno,Y.,Otani,T(2002). Welfare Brings: The Historical Review and its Future. China-Japan Medical Conference 2002, 336.
- 28)Murata,K.,Ohno,Y.,Kasahara,S.,Yasuma,A.,Fujita,M.,Yano,T.(2002). The Change of High School Students' Health Status and Lifestyle by Grade and Course. China-Japan Medical Conference 2002, 342.
- 29)Wang,L.,Ohno,Y.,Kasahara,S.,Saika,K.,Murata,K.,Hagimoto,A.,Yasuma,A.,Ito,Y.(2002). The Comparison of the Decadal Change of Mortalities in Major Diseases by Cohort Analysis: China (Rural and Urban Area), Japan, Hong Kong and Korea. China-Japan Medical Conference 2002, 343.
- 30)Yasuma,A.,Saika,K.,Ohno,Y.,Kasahara,S.,Nakamura,Y.,Nakamura,T.,Kanosue,K.(2002). Analysis on the Relationship between the Incidence of Heat Stroke and Meteorological Data in Kobe City (1996-2000). China-Japan Medical Conference 2002, 343.
- 31)Ito,Y.,Ohno,Y.,Kasahara,S.,Murata,K.,Sugiyama,H.(2002). Analysis of Medical Institution Selection Using the Analytic Hierarchy Process. China-Japan Medical Conference 2002, 343.
- 32)Hagimoto,A.,Ohno,Y.,Ishii,A.,Kasahara,S.,Nakamura,A.,Inamura,K.,Harauchi,H.,Monden,M.,Sakon,M.,Fujimoto,H.,Bando,M.(2002). The Job Analysis of Intern Doctors and Nurses in The University Hospitals. China-Japan Medical Conference 2002, 344.
- 33)萩本明子, 大野ゆう子, 石井豊恵, 笠原聡子, 中村亜紀, 稲島清也, 原内一, 門田守人, 左近賢人(2002). タイムスタディデータに基づく同時進行病棟業務の特性分析. 第22回医療情報学連合大会(第3回日本医療情報学会学術大会) 論文集, P 20.
- 34)Kasahara,S.,Ohno,Y.,Oshima,A.,et al. (2002).The estimation of the number of rectum cancer patients living with stoma using statistical model and cancer registry data. IACR 2002 24th Annual Meeting of the International Association of Cancer Registries, P97.
- 35)Kasahara,S.,Ohno,Y.,Ishii,A.,Kitamura,Y.,Hagimoto,A.,Hirakawa,K.,Inamura,K.,Harauchi,H.,Fujimoto,H.,Sakon,M.,Monden,M.(2002). A Simulation of the Total Patient Care Time at a 50-bed Surgical Unit from the Data of 24-hour Time Study. China-Japan Medical Conference 2002, 342.
- 36)矢野祐美子, 阿曾洋子, 菅野(前畑) 夏子 (2002). 在宅高齢者の生活の質とそれに関係する要因の分析, 日本公衆衛生雑誌(第61回日本公衆衛生学会総会抄録集),49 (10),729.
- 37)中岡亜希子, 小笠原知枝, 久米弥寿子(2002). 大卒看護師の実践能力-専門学校・短大卒との比較, 日本看護研究学会雑誌,25(3),173.
- 38)鈴木雅子, 小笠原知枝, 久米弥寿子(2002). 終末期看護に携わる看護師の倫理的ジレンマに対するコーピング-一般病棟と緩和ケア病棟の看護師の比較, 日本看護研究学会雑誌,25(3),152.
- 39)辻ちえ, 竹田千佐子, 小笠原知枝(2002). 看護の専門職的自律性に関与する要因, 日本看護研究学会雑誌,25(3),254.

#### 4. 研究助成

- 1)阿曾洋子(分担研究員), 真田弘美, 大浦武彦, 徳永恵子, 田中マキ子, 宮地良樹, 森口隆彦 (2002). 褥瘡ケアにおける看護技術の基準化とその経済評価, 平成14年度厚生労働省長寿科学総合研究事業.
- 2)阿曾洋子(分担研究員), 田島桂子(2002). 看護学教育の基準作成に関するプロジェクト, 平成14年度厚生労働省長寿科学総合研究事業.
- 3)阿曾洋子(2002). イギリスにおける難病患者の看護及び看護教育に関する実態調査, 財団法人大阪難病研究財団平成14年度研究助成・海外派遣助成.
- 4)大野ゆう子(代表)(2002). 21世紀型保健医療指標の開発. 平成14年度統計数理研究所共同利用研究.
- 5)久米弥寿子(2002). 行動コーディングシステムによる看護学生のコミュニケーション技法の解析. 平成14年度文部省科学研究費補助金, 若手研究(B).
- 6)笠原聡子(2002). 患者の看護必要度に応じた看護料設定のための基礎的研究. 平成14年度科学研究費補助金, 若手研究(B).

# 母性・小児看護学講座

## 1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

### (原著)

- 1)Hasegawa,T.,Sasaki,T.,Kimura,T.,Nakai,H.,Sando,K.,Wasa,M.,Takagi,Y.,Okada,A.,Mushiake,S.,Harada,T.(2002).Effects of isolated small bowel transplantation on liver dysfunction caused by intestinal failure and long-term total parenteral nutrition. Pediatric Transplantation, 6,235-239.
- 2)Takagi,Y.,Okada,A.,Sando,K.,Wasa,M.,Yoshida,H.,Hirabuki,N.(2002).Evaluation of indexes of in vivo manganese status and the optimal intravenous dose for adult patients undergoing home parenteral nutrition. Am J Clin Nutr, 75 (1),112-118.
- 3)浅井俊哉, 山東勤弥, 李都相, 清水義之, 曹英樹, 和佐勝史, 高木洋治, 岡田正(2002).在宅静脈栄養施行時のカテーテルトラブルの検討—Hickman-Broviac型カテーテルと完全皮下埋込式カテーテルの比較. 静脈経腸栄養 17(3),49-52.
- 4)本田育美, 藤原千恵子, 星和美, 石田宜子, 石井京子(2002). ソーシャル・サポートの職務ストレスに関する緩和効果—新人看護婦への縦断的調査に基づいて—. 滋賀学術雑誌, 6(1), 14-20.
- 5)徳留由起子, 渡部淳子, 永島すえみ, 石原あや, 藤原千恵子(2002). 看護婦の援助に対する両親の認識. 大阪府立母子保健総合医療センター雑誌, 17, 101-105.
- 6)浜名圭子, 黒飛俊二, 川上展弘, 前川周, 滝沢祥子, 稲田菜穂子, 本田敦子, 松岡太郎, 藤田博, 原達幸, 永井利三郎(2002). 急性期川崎病における Atrial natri uretic peptide(ANP), Brain natriuretic peptide(BNP) の検討. Progress in Medicine, Vol 22, 1636-1639.
- 7)Suzuki,Y.,Imai,K.,Toribe,Y.,Ueda,H.,Yanagihara,K.,Shimono,K.,Okinaga,T.,Ono,J.,Nagai,T.,Matsuoka,T.,Tagawa,T.,Abe,J.,Morita,Y.,Fujikawa,Y.,Arai,H.,Mano,T.,Okada,S. (2002) .Long-term response to zonisamide in patients with West syndrome. Neurology,58(10), 1556-9.
- 8)Kurotobi,S.,Nagai,T.,Kawakami,N.,Sano,T.(2002). Coronary diameter in normal infants, children and patients with Kawasaki disease. Pediatr Int, 44(1),1-4.
- 9)黒飛俊二, 前川周, 滝沢祥子, 浜名圭子, 稲田菜穂子, 川上展弘, 本田敦子, 松岡太郎, 藤田博, 原達幸, 永井

利三郎(2002). 当院で施行したガンマグロブリン超大量療法 (1 g・kg/day) について. Progress in Medicine 22, 1644-1647.

- 10)高橋清子(2002), 先天性心疾患をもつ思春期の子どもの“病気である自分”に対する思い. 大阪大学看護学雑誌, 8(1),12-19.
- 11)Yamaguchi,M.,Katoh,S.,Morimoto,C.,Sakayama,K.,Shiosaka,T.,Masuno,H.,and Okuda,H., (2002). The hormonal responses of lipoprotein lipase activity and lipolysis in adipose tissue differ depending on the stage of the estrous cycle in female rats. Int J Obes Relat Metab Disord, 26(5), 610-617.
- 12)山口琴美, 山地建二, 芳中シゲ子, 竹村秀雄, 谷口武(2002). 妊婦における喫煙の実態調査. 大阪母性衛生学会雑誌, 38(1), 18-22.
- 13)山口雅子, 片山陽子, 加藤節野, 佐藤美咲, 西村明子, 中嶋有加里, 炭原加代, 山地建二 (2002). 妊婦スポーツに関する意識調査. 大阪母性衛生学会雑誌, 38(1), 31-33.
- 14)熊田真弓, 中嶋有加里, 原戸美和, 中筋美子, 西村明子, 山口雅子, 炭原加代, 山地建二, 村田雄二, 飯田克弘, 森康男(2002). 妊婦ドライバーの道路走行安全性に関する基礎的検討 (第1報) —非妊女性ドライバーによるドライビングシミュレータを用いた室内実験の評価—. 大阪母性衛生学会雑誌, 38(1), 34-39.
- 15)原戸美和, 中筋美子, 中嶋有加里, 熊田真弓, 西村明子, 山口雅子, 炭原加代, 山地建二, 村田雄二, 飯田克弘, 森康男(2002). 妊婦ドライバーの道路走行安全性に関する基礎的検討(第2報) —ドライビングシミュレータを用いた非妊女性ドライバーの運転特性評価—. 大阪母性衛生学会雑誌, 38(1), 40-44.
- 16)飯尾祐加, 森田真由美, 東田有加, 西村明子, 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 山地建二, 谷口武(2002). 臍帯巻絡に関する統計学的解析. 大阪母性衛生学会雑誌, 38(1), 45-47.
- 17)松島早帆子, 岡本希, 炭原加代, 西村明子, 中嶋有加里, 山口雅子, 山地建二(2002). ベビーシッターのイメージや知識に関する実態調査—小学校入学前の子どもの持つ母親対象—. 大阪母性衛生学会雑誌, 38 (1), 100-114.
- 18)西村明子, 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 山地建二(2002). 大学教育における助産コース学生の分娩介助技術到達度調査. 大阪母性衛生学会雑誌, 38(1), 134-138.

### (総説)

- 1)高木洋治(2002). 微量元素の異常と評価方法. 栄養—評価と治療 19(1),9-17.
- 2)高木洋治(2002). 微量元素の生理機能. Medicina 39 (2),211-214.

(1),1-8.

- 4)高木洋治(2002).在宅中心静脈栄養法 (Home parenteral nutrition; HPN). JJPEN 24(8),409-419.
- 5)岡田正,高木洋治,松枝啓,城谷典保(2002).在宅栄養はどこまで進んだか. 栄養—評価と治療 19(4),421-432.
- 6)高木洋治,井澤奈津子,藤本美智子,小林秀之,崔黎,岡田正(2002).亜鉛欠乏時における生体反応. Bio-medical Research on Trace Elements 13(2),114-119.
- 7)高木洋治,曹英樹,山東勤弥,和佐勝史,岡田正(2002).経管・経静脈栄養—栄養学的問題点はどこまでクリアされたか. 小児科 43(11),1644-1651.
- 8)高木洋治(2002).高木洋治監修,社会法人栄養士会編集,亜鉛欠乏と味覚障害.健康増進のしおり,(111),1-3.
- 9)高木洋治(2002).高木洋治監修,微量元素の総論.静脈栄養と微量元素 Series1,味の素ファルマ(株) 1-5.
- 10)高木洋治(2002).高木洋治監修,マンガン.静脈栄養と微量元素 Series2,味の素ファルマ(株)1-5.
- 11)永井利三郎(2002).けいれん重積のマネジメント. 小児神経学の進歩第3集,診断と治療社.
- 12)植木野裕美,高橋清子(2002).子どもに正確な知識をどのように伝えるか. 小児看護,25 (2), 193-196.
- 13)植木野裕美,高橋清子(2002).子どもの遊びとヘルスプロモーション. 小児内科, 34 (8), 1272-1274.
- 14)中嶋有加里,大橋一友,山地建二(2002).妊娠中の自動車運転. 周産期医学 32 (増刊号) 66-69.

#### (報告書)

- 1)藤原千恵子,高谷裕紀子,高田一美,酒井愛子,仁尾かおり,文字智子,西村路子,川合香苗,本多綾子,高城美圭,高城智圭,流郷千幸,宮内環,他(2002).病気の子どもをもつ家族と小児看護を実践する看護者のストレス・コーピングに関する研究. 滋賀医科大学学長研究補助金による研究成果報告書, 1-83.
- 2)前川喜平,栗屋豊,松石豊次郎,岡崎富男,永井利三郎,田辺卓也,三牧孝至,宮津光伸,斉藤義弘,奥野章,山本克哉,(2002).けいれん性疾患児・者への予防接種基準作成に関する研究,安全なワクチン確保とその摂取方法に関する総合的研究,厚生科学研究医薬安全総合研究事業,平成13年度研究報告書,183-192.

#### 2.単行本(著書,翻訳本)

- 1)高木洋治(2002).静脈栄養,適応,禁忌,合併症. 看護のための最新医学講座 29 巻栄養療法・輸液.日野原重明,井村裕夫監修,武田英二編集,210-223.中山書店.
- 2)高木洋治(訳)(2002). 亜鉛—最新栄養学 8 版.木村修一,小林修平翻訳監修,田中平三ら編,342-355.建帛社.[Dibley MJ: Chapter 31 zinc. Present knowledge in nutrition eighth edition. Bowman BA &

Russell ed(2001). 329-343.]

- 3)高木洋治(2002).静脈・経腸栄養/高齢者栄養.細谷憲政監修, 腸管大量切除ビジュアル臨床栄養実践マニュアル(4),62-67.小学館.
- 4)山地建二,大橋一友(2002).生殖.二宮石雄,安藤啓司,彼末一之,松川寛二編, スタンダード生理学,205-226.文光堂.
- 5)氏家幸子監修 山中久美子,藤原千恵子,蝦名美智子編著(2002). 母子看護学C 小児看護学,345.廣川書店.
- 6)氏家幸子監修,藤原千恵子,山中久美子,蝦名美智子編著(2002). 母子看護学E 母子看護技術II 小児看護技術,240.廣川書店.

#### 3.学会発表(抄録, Proceeding)

- 1)Sando,K.,Okada,A.,Shimizu,Y.,Soh,H.,Wasa,M.,Takagi,Y.(2002).Cost-effective benefits of nutrition support team at university hospital in Japan. The third International Conference of the Asia Pacific Clinical Nutrition Society 10-13, March 2002,Osaka Japan.
- 2)Hasegawa,T.,Sasaki,T.,Kimura,T.,Sando,K.,Wasa,M.,Takagi,Y.,Okada,A.(2002).Living-related small bowel transplantation for a patient with intestinal failure associated with TPN-related liver dysfunction. The third International Conference of the Asia Pacific Clinical Nutrition Society, Osaka Japan.
- 3)Shimizu,Y.,Wasa,M.,Soh,H.,Sando,K.,Harada,T.,Takagi,Y.,Okada,A.(2002).A case of glomerulonephritis complicated with catheter-related sepsis in a long-term HPN patient. The third International Conference of the Asia Pacific Clinical Nutrition Society, Osaka Japan.
- 4)Nishida,S.,Katayama,N.,Ikeda,D.,Kikuchi,T.,Sato,M.,Takagi,Y.,Okada,A.(2002).Preliminary study on chromium concentration in human plasma. The third International Conference of the Asia Pacific Clinical Nutrition Society, Osaka Japan.
- 5)Takagi,Y.(2002).Home TPN (HPN) in Japan. Twelfth Chinese International Symposium Parenteral and Enteral Nutrition, Beijing, China.
- 6)Takagi,Y., Okada,A., Sando,K., Wasa,M., Hirabuki,N.(2002).Evaluation of indexes of manganese status and the optimal dose for patients receiving home parenteral nutrition. Sixth International Society Trace Elements Research in humans, Quebec, Canada.
- 7)高木洋治(2002).Zn欠乏症について Zn フォーラムインメディスン.第8回パナジウムの化学と生物学研究

- 会, 京都.
- 8) 高木洋治(2002). HPNの現状と問題点 第11回 HIT 研究会ランチョンセミナー, 名古屋.
  - 9) 池田真由美, 藤井香, 高木洋治, 河上智香(2002). 理想の体格に対する意識の経年的変化について. 第20回 肥満・栄養障害研究会, 東京.
  - 10) 吹田麻耶, 高木洋治(2002). 在宅栄養法の普及に関する看護師の意識調査 第17回在宅静脈栄養(HPN)研究会、第25回在宅経腸栄養(HEN)研究会、合同集会, 横浜.
  - 11) 高木洋治(2002). わが国における在宅栄養法の現状と展望. DDW-Japan2002 教育講演 横浜.
  - 12) 阿部裕子, 山東勤弥, 曹英樹, 清水義之, 内山里美, 小田千華子, 和佐勝史, 高木洋治(2002). 当院における成人HPN患者の栄養摂取量の評価. 第17回在宅静脈栄養(HPN)研究会、第25回在宅経腸栄養(HEN)研究会、合同集会, 横浜.
  - 13) 清水義之, 山東勤弥, 和佐勝史, 曹英樹, 阿部裕子, 内山里美, 小田千華子, 高木洋治(2002). 骨髓幹細胞移植後に発症した移植片対宿主病に対しHPNを導入した1例. 第17回在宅静脈栄養(HPN)研究会、第25回在宅経腸栄養(HEN)研究会、合同集会, 横浜.
  - 14) 阿部裕子, 山東勤弥, 曹英樹, 清水義之, 内山里美, 小田千華子, 和佐勝史, 高木洋治(2002). 当院における成人HPN患者の経口摂取状況の把握. 第24回日本微量元素学会臨床栄養学会, 大阪.
  - 15) 高谷裕紀子, 藤原千恵子, 星和美, 石井京子, 仁尾かおり, 古賀智影, 石見和世, 林田麗, 彦惣美穂(2002). 4年制大学卒業看護師のキャリア形成に関する研究—キャリア測定尺度の作成—, 日本看護研究学会雑誌(第28回日本看護研究学会学術集会, 横浜市) 25, 226.
  - 16) 高田一美, 文字智子, 高谷裕紀子, 藤原千恵子, 仁尾かおり(2002). 入院している子どもを持つ家族のストレス認知に関する研究—ストレス得点の心理的反応への影響—, 日本小児看護学講演集(日本小児看護学会第12回学術集会, 横浜市), 128-129.
  - 17) 高谷裕紀子, 藤原千恵子, 高田一美, 文字智子, 仁尾かおり(2002). 入院している子どもを持つ家族のストレス認知に関する研究—ストレス得点の心理的反応への影響(2)入院期間による違い—, 日本小児看護学会講演集(日本小児看護学会第12回学術集会, 横浜市), 130-131.
  - 18) 仁尾かおり, 藤原千恵子(2002). 先天性心疾患をもつ思春期の子どもの病気認知—生活制限のある子どもの社会的な疎外と限界に関する認知の側面—, 第49回日本小児保健学会講演集, 神戸市, 368-369.
  - 19) 藤原千恵子(2002). 入院児の家族コーピングに関する研究—先天性疾患による入院対象の特徴—, 第49回日本小児保健学会講演集, 神戸市, 602-603.
  - 20) 仁尾かおり, 藤原千恵子(2002). 先天性心疾患をもつ思春期の子どもの病気認知その1—病気の受容に関する認知の側面—, 第38回日本小児循環器学術集会抄録集, 23.
  - 21) 仁尾かおり, 藤原千恵子(2002). 先天性心疾患をもつ思春期の子どもの病気認知その2—病気のコントロールと自立に関する認知の側面—, 第38回日本小児循環器学術集会抄録集, 24.
  - 22) 宮内環, 藤原千恵子, 流郷千幸, 高谷裕紀子(2002). 小児と関わる看護者のストレスとサポートに関する研究—中堅看護者の小児看護経験年数による職務ストレス、サポート認知の差異—, 第33回日本看護学会抄録集小児看護, 富山県, 42.
  - 23) 藤原千恵子(2002). 入院児の家族コーピングに関する研究—小児がんによる入院対象の特徴—, 第9回日本家族看護学会学術集会, 盛岡市.
  - 24) 高谷裕紀子, 流郷千幸, 藤原千恵子, 仁尾かおり, 宮内環(2002). 小児看護者の職務ストレスに関する研究(1)—小児病棟の看護者の特徴—, 第22回日本看護科学学会学術集会, 東京都.
  - 25) 流郷千幸, 高谷裕紀子, 藤原千恵子, 仁尾かおり, 宮内環(2002). 小児看護者の職務ストレスに関する研究(2)—成人との混合病棟の看護者の特徴—, 第22回日本看護科学学会学術集会, 東京都.
  - 26) 藤原千恵子(2002). 入院児の家族コーピングに関する研究—感染症による入院対象の特徴—, 第22回日本看護科学学会学術集会, 東京都.
  - 27) 稲田菜穂子, 前川周, 滝沢祥子, 川上展弘, 黒飛俊二, 本田敦子, 松岡太郎, 藤田博, 原達幸, 永井利三郎(2002). 横紋筋融解による急性腎不全及びDICを伴った熱射病の1乳児例(会議録/症例報告). 第105回日本小児科学会, 仙台.
  - 28) 川上展弘, 黒飛俊二, 前川周, 滝沢祥子, 稲田菜穂子, 本田敦子, 松岡太郎, 藤田博, 原達幸, 永井利三郎(2002). 完全房室ブロックを起こし一時的にペースメーカーを必要とした心筋炎の1例(会議録/症例報告). 第38回日本小児循環器学会, 東京.
  - 29) 松岡太郎, 黒飛俊二, 前川周, 滝沢祥子, 稲田菜穂子, 川上展弘, 本田敦子, 藤田博, 原達幸, 永井利三郎(2002). Barth症候群の一例(会議録/症例報告). 第105回日本小児科学会, 仙台.
  - 30) 川上展弘, 黒飛俊二, 前川周, 滝沢祥子, 浜名圭子, 稲田菜穂子, 本田敦子, 松岡太郎, 藤田博, 原達幸, 永井利三郎(2002). 非定形的な猫引っかき病を合併した若年性関節リュウマチの1例.(会議録/症例報告). 第154回大阪小児科学会, 大阪.

- 31) Suzuki, Y., Imai, K., Toribe, Y., Ueda, H., Yanagihara, K., Shimono, K., Okinaga, T., Ono, J., Nagai, T., Matsuoka, T., Tagawa, T., Abe, J., Morita, Y., Fujikawa, Y., Arai, H., Mano, T., Okada, S. (2002): Long-term response to zonisamide in patients with West syndrome. Joint Congress of ICNA and AOCNA 2002, Beijing, China.
- 32) Nagai, T., Honda, A., Matsuoka, T., Maekawa, S., Takizawa, S., Inada, N., Kawakami, N., Kurotobi, S., Hujita, H., Hara, T. (2002) .A case of chromosomal 15q proximal tetrasomy associated with infantile spasms and partial seizure and review of literature. 4th Asian and Oseanian Epilepsy Congress, Karuizawa, Japan"
- 33) 高橋清子(2002). 先天性心疾患をもつ中高生の自己管理に関する研究. 第49回日本小児保健学会, 神戸.
- 34) 炭原加代, 原口範子, 西村明子, 中嶋有加里, 山地建二, 大橋一友 (2002). 褥婦の食生活と乳児栄養法. 第43回日本母性衛生学会, 旭川.
- 35) 山口雅子, 高坂美和, 田竈阿希子, 徐智恵, 大橋一友 (2002). 更年期症状と趣味に関する研究. 第43回日本母性衛生学会, 旭川.
- 36) 西村明子, 中嶋有加里, 山口雅子, 炭原加代, 大橋一友, 山地建二 (2002). 大学教育における助産コース学生の分娩助産技術到達度調査 (第2報). 第43回日本母性衛生学会, 旭川.
- 37) 中嶋有加里, 西村明子, 山口雅子, 炭原加代, 大橋一友, 山地建二 (2002). 大学教育における助産コース学生の分娩助産技術到達度調査 (第3報) - 分娩助産評価リストの改善に向けての検討 -. 第43回日本母性衛生学会, 旭川.
- 38) 岸田康子, 矢田昭子, 石倉武子, 山口雅子 (2002). 地方と都市部の看護職の育児支援に関する研究 第1報 家族機能の比較検討. 第22回日本看護科学学会学術集会, 東京.
- 39) 矢田昭子, 岸田康子, 石倉武子, 山口雅子 (2002). 地方と都市部の看護職の育児支援に関する研究 第2報 就労と育児に伴うストレスと対処行動の比較. 第22回日本看護科学学会学術集会, 東京.

#### 4. 研究助成

- 1) 藤原千恵子(代表)星和美, 石井京子, 高谷裕紀子, 河上智香, 西村明子 (2002). 看護系大学卒業看護者のキャリア形成に関する探索的研究, 平成13~15年度文部科学省研究費, 萌芽研究.
- 2) 中嶋有加里 (2002). 妊婦の自動車運転の安全性に関する研究 - ドライビングシミュレータを用いた室内実験システムによる検討 -. 文部科学省科学研究費,

(若手研究 (B)).

- 3) 河上智香(2002). 子どもの在宅ターミナルケア確立のためのプロトコル作成に関する検討. 文部科学省研究費, (若手研究(B)).

### 成人・老人看護学講座

#### 1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

(原著)

- 1) Izumi, K., Makimoto, K., Kato, M., Hiramatsu, T. (2002). Prospective study of fall risk assessment among institutionalized elderly in Japan. Nurs Health Sci, 4(4), 41-147.
- 2) 荻野敏, 榎本雅夫, 和田光雄(2002). アレルギー性鼻炎と住環境ダニ抗原量. 耳鼻臨床, 95(1), 45-50.
- 3) 荻野敏(2002). ストレスとアレルギー疾患 - 予備校生を対象に. 耳展, 45(3), 204-210.
- 4) 奥田稔, 荻野敏, 他8名(2002). ロラタジンの通年性アレルギー性鼻炎に対する臨床的検討 - プラセボとケトチフェンを対照として. 耳鼻臨床, 補107, 1-24.
- 5) 荻野敏, 他48名(2002). スギ花粉症患者における塩酸セチリジン初期投与の有効性(第1報) - 花粉症症状に対する効果. 耳鼻, 48(6), 421-431.
- 6) 角谷千恵子, 荻野敏(2002). Webサイトによる花粉情報の提供とアクセス数および患者動態(第1報) - アクセス数と花粉飛散実測値の関係. インターネットの有用性について. Prog Med, 22(9), 2205-2209.
- 7) 角谷千恵子, 荻野敏(2002). Webサイトによる花粉情報の提供とアクセス数および患者動態(第2報) - 患者動態を中心に. Prog Med, 22(10), 2486-2489.
- 8) 奥田稔, 宇佐神篤, 伊藤博隆, 荻野敏(2002). アレルギー性鼻炎における昆虫アレルギーの全国調査. 耳鼻, 105(12), 1181-1188.
- 9) 福録恵子, 長野拓三, 荻野敏(2002). アトピー性皮膚炎患者におけるQOL: SF-36を用いて. アレルギー, 51(12), 1159-1169.
- 10) 神崎初美, 城戸良弘(2002). 胃切除を受ける早期胃癌患者に対する認知行動療法 - セルフエフィカシーと心理的ストレスに対するノート記述と面接による介入効果 -. 日本看護科学会誌, 22(4), 1-10.

(総説)

- 1) 江川隆子(2002). 政策的クリティカルパスの落とし穴. 日本看護・社会・政策学会会誌 JANSP, 1(1), 20-27.
- 2) 荻野敏(2002). アレルギー疾患のアウトカムを何で見るか. EBM ジャーナル, 3(1), 96-100.
- 3) 荻野敏(2002). 花粉症とQOL. JOHNS, 18(1), 74-78.
- 4) 入船盛弘, 荻野敏(2002). 慢性副鼻腔炎・鼻茸とアスピリン喘息. アレルギーの臨床, 22(2), 120-125.



- 5)荻野敏(2002). アスピリン喘息を伴う慢性副鼻腔炎、鼻茸の治療. アレルギーの臨床,22(2),162-163.
  - 6)荻野敏(2002). 花粉症治療薬の分類と臨床薬理. 今月の治療,10(2),225-229.
  - 7)荻野敏(2002). 花粉症のためのQOL調査. 医学のあゆみ,200(5),407-410.
  - 8)荻野敏,金田重人(2002). スギ花粉症の診断. SCOPE,41(3),26-27.
  - 9)荻野敏(2002). 病態に即した診断のアプローチ“鼻アレルギー”. Modern Physician,22(4),414-416.
  - 10)荻野敏(2002). 口腔アレルギー症候群. JOHNS,8(5),973-976.
  - 11)荻野敏(2002). イネ科花粉症とその治療. Medical News,37(1),11-13.
  - 12)荻野敏(2002). QOL検査法とアレルギー性鼻炎患者のQOL. 現代医療,34増II,1195-1199.
  - 13)荻野敏(2002). アレルギー性鼻炎の薬物療法. 耳鼻免疫アレルギー,20(2),164-165.
  - 14)荻野敏,馬場謙治,菊守寛(2002). QOLによる治療効果の評価. 医薬ジャーナル,38(12),3305-3309.
  - 15)荻野敏,角谷千恵子(2002). 花粉症に対する薬物療法の具体例と注意点. Topics in Atopy,1(2),17-21.
  - 16)城戸良弘(2002). PEGの基礎知識. 月刊ナースング,22(9),18-23.
  - 17)城戸良弘(2002). 消化器外科領域で使用する各種モニター用チューブと消化管留置チューブ. 消化器外科NURSING,7(11),10-17.
  - 18)奥宮暁子(2002). リハビリテーション看護の変遷と現状. 大阪大学看護学雑誌,8(1),4-11.
  - 19)奥宮暁子(2002). 第1回RCNリハビリテーション看護学会に参加して. リハビリテーション看護研究 3,113-117. 医歯薬出版.
  - 20)奥宮暁子(2002). セルフケアとは何か. リハビリテーション看護研究 5,2-5. 医歯薬出版.
  - 21)奥宮暁子・石川ふみよ,藤原正恵,川波公香(2002). リハビリテーション看護文献紹介. リハビリテーション看護研究 5,112-115. 医歯薬出版.
  - 22)牧本清子(2002). 新しい時代における看護研究の方略一日米の看護研究比較をとおして. 日本看護研究学会誌,5(1),31-33.
  - 23)升谷英子,井上智恵,河村葉子,今井雪香,黄田美香(2002). 「身体侵襲を伴う看護技術」を臨地実習につなぐ教育の実践. 看護展望 27,(10),35-45.
  - 24)河村葉子(2002). 救急医療従事者におけるストレス. 日本救急看護学会準機関誌, Emergency Nursing,15(11).
- (その他)
- 1)山本洋子,奥宮暁子訳(2002). 日本と米国における看

護教育と看護政策. 日本看護・社会・政策学会誌 JANSP,1(1),93-107. Marcia A. Petrini(2002). Nursing Education and Nursing Policy Japan and United States 日本看護・社会・政策学会特別講演.

## 2. 単行本(著書, 翻訳本)

- 1)江川隆子,本田育美(2002). 看護を展開するための方法としての技術(看護過程). 考える基礎看護技術 I-看護技術の基本 第2版(pp63-83). 廣川書店.
- 2)江川隆子,本田育美,山本洋子(2002). 看護看護行為の基本-ヘルスアセスメント. 考える基礎看護技術 I-看護技術の基本 第2版(pp100-111). 廣川書店.
- 3)荻野敏(2002). 市販薬と医師が処方する薬の違い. 中川武正,編, これだけは知っておきたい抗アレルギー薬の知識 (pp10-11). 大阪: 医薬ジャーナル社.
- 4)奥宮暁子(2002). 吸入,坪井良子他編: 考える基礎看護技術 II-看護技術の実際 第2版(pp489-504). 廣川書店.
- 5)奥宮暁子,井上智恵(2002). 吸引,坪井良子他編. 考える基礎看護技術 II-看護技術の実際, 第2版, (pp504-519). 廣川書店.
- 6)奥宮暁子,宮腰由紀子,金城利雄編集(2002). リハビリテーション看護研究 3, (全110頁). 医歯薬出版
- 7)奥宮暁子(2002). シリーズ-知っておきたい最新の看護技術, 慢性疾患のアセスメントと看護, (全234頁) 中央法規出版.
- 8)奥宮暁子,宮腰由紀子,金城利雄編集(2002). リハビリテーション看護研究 6, (全110頁). 医歯薬出版.
- 9)牧本清子(2002). 系統看護学講座, 社会保障制度と生活者の健康2, 公衆衛生, 星旦二, 松田正巳編, 疫学と健康指標(pp40-48). 医学書院.
- 10)國生拓子(2002). 精神科治療と看護の実際-精神障害の回復過程-. 精神看護学 II-精神臨床看護学, 第3版, (pp153-165). 廣川書店.
- 11)國生拓子(2002). 精神科看護のケアプラン-操作をする患者の看護, 自殺・自傷行為がある患者の看護. 精神看護学 II-精神臨床看護学 第3版(pp278-303). 廣川書店.
- 12)升谷英子(2002). 食道がん根治手術患者の周手術期における看護過程; 総論, ケーススタディ看護過程 第2版(pp40-44). 医学書院.
- 13)三好越子, 升谷英子, 上田実加(2002). 食道がん根治手術患者の周手術期における看護過程; 術前, ケーススタディ看護過程 第2版 (pp45-67). 医学書院.
- 14)上田実加, 升谷英子, 三好越子(2002). 食道がん根治手術患者の周手術期における看護過程; 術後急性期, ケーススタディ看護過程 第2版(pp68-97).

医学書院.

- 15)三好越子, 升谷英子, 上田実加(2002). 食道がん根治手術患者の周手術期における看護過程; 術後回復期. ケーススタディ看護過程第2版, (pp98-119).

医学書院.

- 16)升谷英子, 三好越子, 上田実加(2002). 食道がん根治手術患者の周手術期における看護過程; 外来受診期. ケーススタディ看護過程第2版, (pp120-149).

### 3. 学会発表 (抄録, Proceeding)

- 1)江川隆子, 神谷千鶴, 本田育美, 新谷恵子, 三島明子(2002). 外来血液透析患者の看護記録に関する実態調査-透析患者の「通院」に関する記録について. 第5回日本腎不全看護学会学術集会・総会, 名古屋.
- 2)Egawa, T., Imai, Y. (2002). Pilot study of risk for peripheral dysfunction (NDR) in patients with diabetes mellitus and arteriosclerosis obliterans (ASO). NANDA, NIC, NOC, Chicago.
- 3)荻野敏(2002). スギ花粉症と QOL - SF-36 から見た検討. 第4回花粉症を考える学術講演会. 大阪.
- 4)荻野敏(2002). アレルギー性鼻炎・花粉症について. 平成13年度第7回健康教室・健康保険組合連合会大阪連合会. 大阪.
- 5)荻野敏(2002). アレルギー性鼻炎の薬物療法. 第7回阪神アレルギー疾患研究会. 尼崎.
- 6)荻野敏(2002). 最近のアレルギー性鼻炎の薬物治療について. 第1回北摂地区開業医臨床研究会. 大阪.
- 7)荻野敏(2002). ミニシンポジウム“アレルギー性鼻炎の薬物治療”. 第20回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会. 松江.
- 8)荻野敏(2002). 公開講座“アレルギー性炎症の薬物療法-耳鼻科医の立場から”. 第20回日本耳鼻咽喉科免疫アレルギー学会. 松江.
- 9)荻野敏(2002). サテライトシンポジウム“上気道と下気道の関連性-AIA患者における上気道ポリープの病態と発症機序”. 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会. 千葉.
- 10)角谷千恵子, 荻野敏(2002). ストレスとアレルギー症状の関連について. 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会. 千葉.
- 11)荻野敏, 武田憲昭, 原田保(2002). スギ花粉症に対するセチリジンの有効性. 第14回日本アレルギー学会春季臨床大会. 千葉.
- 12)Ogino, S. (2002). Recent topics in allergic rhinitis in Japan. 第72回中華民国耳鼻咽喉科医学会. 台湾.
- 13)荻野敏(2002). シンポジウム“アレルギー性鼻炎の全人的治療を目指して-東西医学併用治療の立場から”. 第53回日本東洋医学会学術総会. 名古屋.

- 14)Ogino, S., Takeda, N., Harada, T. (2002). The effect of cetirizine prophylactic treatment for quality of life of the patients with Japanese cedar pollinosis. 13 Congress of the European Academy of Allergology and Clinical Immunology. Naples.
- 15)荻野敏(2002). シンポジウム“NSAIDsで増悪するアレルギー疾患-耳鼻咽喉科の立場から”. 第33回日本職業・環境アレルギー学会. 横浜.
- 16)有本啓恵, 角谷千恵子, 荻野敏(2002). アレルギー症状に対するストレスの影響 (予備校生を対象に). 第41回日本鼻科学会. 広島.
- 17)北村嘉章, 三好綾子, 福井裕行, 荻野敏, 武田憲昭 (2002). 鼻過敏症の動物モデルにおけるヒスタミン H1 受容体 mRNA の発現. 第41回日本鼻科学会. 広島.
- 18)荻野敏, 武田憲昭, 原田保(2002). スギ花粉症に対するセチリジン初期投与の有効性 (QOL からの検討). 第41回日本鼻科学会. 広島.
- 19)Kakutani, C., Ogino, S., Enomoto, T., Wada, M. (2002). Levels of dust mite allergens in the home of patients with allergic rhinitis. The 5th Asia Pacific Congress of Allergology and Clinical Immunology. The 7th West Pacific Allergy Symposium. Soul.
- 20)荻野敏(2002). 教育セミナー“アスピリン喘息合併症としての鼻茸”. 第52回日本アレルギー学会総会. 横浜.
- 21)荻野敏, 原田保, 竹田真理子, 瀬尾律, 馬場謙治, 入船盛弘(2002). スギ花粉症に対するセチリジン初期投与の有効性 (第2報): QOL からの検討. 第52回日本アレルギー学会総会. 横浜.
- 22)角谷千恵子, 荻野敏(2002). Web サイトによる花粉飛散情報とアクセス数および患者動態. 第52回日本アレルギー学会総会. 横浜.
- 23)福録恵子, 長野拓三, 荻野敏(2002). アトピー性皮膚炎における QOL: SF-36 をもちいて (第1報). 第52回日本アレルギー学会総会. 横浜.
- 24)長野拓三, 福録恵子, 荻野敏(2002). アトピー性皮膚炎における QOL: 治療効果およびうつ状態との関係 (第2報). 第52回日本アレルギー学会総会. 横浜.
- 25)長田順平, 近藤幸子, 丸山一伸, 中川智子, 金田重人, 伊藤恵子, 荻野敏(2002). スギ花粉大量飛散前後の特異的 IgE 抗体の変動. 第23回日本臨床薬理学会.
- 26)中川智子, 宮脇貴子, 長田順平, 近藤幸子, 丸山一伸, 金田重人, 藤原亜衣, 荻野敏(2002). 各種抗原の陽性率及び抗原の交差性について. 第23回日本臨床薬理学会. 大阪.
- 27)恩田智彦, 梁美和, 中村正, 奥宮暁子, 西田誠, 高橋雅彦, 堀田紀久子, 松澤佑次(2002). 腹部生体インピーダンス法による内臓脂肪量測定法の開発 (1) 測定原理. 第45回日本糖尿病学会年次学術集会. 東京.

- 28)梁美和,中村正,奥宮暁子,西田誠,高橋雅彦・堀田紀久子,松澤佑次,恩田智彦(2002).腹部生体インピーダンス法による内臓脂肪量測定法の開発(2)臨床例への応用・第45回日本糖尿病学会年次学術集会.東京.
- 29)奥宮暁子,坪井良子,石川ふみよ,佐藤公美子,平尾真智子(2002).GHQによる看護教育改革.第7回聖路加看護学会学術大会.東京.
- 30)片嶋充弘,山口亨,横和男,恩田智彦,中村正,梁美和,西田誠,高橋雅彦,堀田紀久子,松澤佑次,奥宮暁子(2002).腹部生体インピーダンス法を用いた実用的内臓脂肪量測定器の開発(1)測定原理.第43回日本人間ドック学会.長野.
- 31)中村正,梁美和,奥宮暁子,西田誠,高橋雅彦,堀田紀久子,松澤佑次,恩田智彦,片嶋充弘,山口亨,福原正樹(2002).腹部生体インピーダンス法を用いた実用的内臓脂肪量測定器の開発(2)臨床試験.第43回日本人間ドック学会.長野.
- 32)牧本清子(2002).1950年代からの日本人男性における平均飲酒量の増加に伴う悪性腫瘍の死亡率への影響.シンポジウム1 アルコールと発癌一疫学,遺伝子,臨床研究の最前線.第37回日本アルコール・薬物医学会総会.東京.
- 33)牧本清子(2002).多職種で取り組む院内感染対策.シンポジウム 感染症検査・チーム医療.第49回日本臨床検査医学会総会.大阪.
- 34)Makimoto,K.,Tsuchida,T.,Ashida,N.,Kanzaki,H.,Yamakawa,M(2002).Development of nosocomial infection outbreak database.Poster presented at the 29th Association for Professionals in Infection Control and Epidemiology Meeting, Nashville,tennessee.may 19-23.
- 35)Makimoto, K(2002).Health Problems in young women in Japan. The 13th International Council on Women's Health Issues,Seoul,Korea.
- 36)Ootani,M.,Kawano,M.,Mori,C.,Kokusho,H(2002).A Study of Reduction in Hospital Length of Stay of Psychiatric - disorder Patients. XII World Congress of Psychiatry abstract 2,255.
- 37)高岡誠子,堀三枝子,京極多歌子,寺師栄,河村葉子(2002).QOLを考慮した鎮静深度スコアの検討.第4回日本救急看護学会学術集会.東京.
- 38)藤田美保,刀谷峰子,堀三枝子,寺師栄,河村葉子(2002).救命救急センターにおける看護師の実態と評価.第4回日本救急看護学会学術集会.東京.
- 39)安田英美,今井雪香,江川隆子(2002).1型糖尿病患者の思い—1事例による検討—.第7回日本糖尿病教育看護学会,名古屋.
- 40)今井雪香(2002).術後せん妄状態に対する看護師の認知と看護行動.第8回日中看護学会.北京.
- 41)黄田美香(2002).終末期がん患者を抱える家族のニードに関する研究—有職・無職別から生じるニードの相違—.第16回日本がん看護学会学術集会,松山.

#### 4. 研究助成

- 1)江川隆子(代表),荻野敏,奥宮暁子,宮川潤一郎,今井雪香 他(2002).糖尿病性神経・血管合併症に関する新しい看護診断指標の地域間較差の研究.平成13-16年度科学研究費補助金,基盤研究(B).
- 2)奥宮暁子,中村正,井上智恵(2002).知的障害者福祉施設利用者の生活習慣病からみた肥満に関する研究.平成14-15年度萌芽研究.
- 3)牧本清子,芦田信之,関川暁(2002).英語版と日本語版の院内感染アウトブレイク調査データベースの開発.平成14年財団法人ファイザーヘルスリサーチ振興財団助成金.
- 4)升谷英子(2002).食道癌手術患者のインフォームドコンセントに関する研究.平成14年度科学研究費補助金.若手研究(B).
- 5)河村葉子(2002).急性期の場におけるターミナルケアのあり方.文部省科学研究費.若手研究(B).
- 6)黄田美香(2002).一般病院・病棟で終末期がん患者を抱える配偶者のニードに関する研究—患者死亡前後の面接を通して—.平成14年度文部省科学研究費,若手研究(B).

### 地域看護学講座

#### 1. 論文(原著, 総説, 報告書等)

##### (原著)

- 1)Shirai,F.,Kawaguchi,M.,Yutsudo,M.,Dohi,Y.(2002).Human peripheral blood polymorphonuclear leukocytes at the ovulatory period are in an activated state.Mol.Cell. Endocrinol.,196,21-28.
- 2)白井文恵,川口真紀子,江部知子,土肥義胤(2002).末梢血好中球の活性酸素産生能からみた高齢者の易感染性の原因について.日本看護研究学会誌,25(4),53-59.
- 3)Hayakawa,K.,Shimizu,T.,Kato,K.,Onoi,M.(2002).Gerontological cohort study of aged twins. The Osaka University Aged Twin Registry,Twin Research,5(5),387-389.
- 4)Hayakawa,K.,Wanamaker,Y.,Kato,K.,Onoi,M.(2002).Feature of Japanese health care system and its impacts on nursing practice. Home Health Care Management & Practice, 5(2). (in press)

- 5)加藤憲司, 早川和生, 清水忠彦, 由良晶子, 金森雅夫 (2002). 成人双生児における食品摂取及び食嗜好性に関する同胞間比較. 日本公衆衛生雑誌, 49(12), 1217-1225.
  - 6)服部律子, 早川和生(2002). 多胎家庭における母子愛着関係の発達とファミリーサポート上の課題. 看護研究, 35(3), 229-237.
  - 7)尾ノ井美由紀, 斯琴, 早川和生. 在日中国人の身体的・精神的健康度と生活習慣. 日本地域看護学会誌, 5(2). (in press)
  - 8)Miyagi, T., Muratani, H., Kimura, Y., Fukiyama, K., Kawano, Y., Fujii, J., Abe, K., Kuwajima, I., Ishii, M., Shiomi, T., Mikami, H., Ibayashi, S., Omae, T. (2002). Increase in pulse pressure relates to diabetes mellitus and low HDL cholesterol, but not to hyperlipidemia in hypertensive patients aged 50 years and older. Hypertension Research, 25(3), 335-341.
  - 9)荻原俊男, 日和田邦男, 松岡博昭, 松本正幸, 瀧下修一, 島本和明, 島田和幸, 阿部功, 大内尉義, 森本茂人, 築山久一郎, 片山茂裕, 今井潤, 鈴木洋通, 小原克彦, 岡石幸也, 三上洋(2002). 老年者高血圧治療ガイドラインー2002年改訂版ー(厚生労働省長寿科学総合研究班). 日本老年医学会雑誌, 39(3), 322-351.
  - 10)有馬志津子, 伊藤美樹子, 三上洋(2002). 育児評価としての「親性」尺度開発の試み. 日本地域看護学会誌, 4(1), 34-40.
  - 11)林知里, 伊藤美樹子, 早川和生(2000). 障害児の親の会(SHG)へのかかわり方にみた障害児の母親の心理的エンパワメント. 日本健康教育学会, 10(1-2). (印刷中) (総説)
  - 1)Hayakawa, K., in Boosma, D., Busjahn, A., Leena, P. (2002). Classical Twin studies and beyond. Nature Review: Genetics, 3, 872-883.
  - 2)三上洋(2002). AII 受容体拮抗薬と副作用 - QOL への影響 -. 血圧, 9(8), 798-801.
  - 3)三上洋, 荻原俊男(2002). QOL の向上をめざす薬物治療. Medical Practice, 19(5), 759-761.
  - 4)上原ます子, 中村由美子, 柳生敏子, 青木菜穂子, 坂下美恵子, 立部巴, 末永洋子, 小林孝子, 松尾高子, 尾ノ井美由紀, 吉川久美子(2002). 高齢者の療養継続を支える看護 - 高齢者の退院指導・継続看護マニュアル -. 看護実践の科学, 27(10), 20-48.
- (報告書)
- 1)土肥義胤, 白井文恵(2002). 肺結核患者の末梢血単球の IFN  $\gamma$  不応答性について. 乳酸菌研究会に関する報告書, 428-431.
  - 2)三上洋, 有馬志津子, 足立登志子, 九津見雅美, 杉浦圭

子, 仲下祐美子, 谷川緑(2002). 平成 13 年度厚生科学研究費補助金 (健康科学総合研究事業)「地域におけるたばこ対策とその評価に関する研究」分担研究「大学におけるたばこ対策とその評価に関する研究」報告書.

- 3)三上洋(2002). 平成 13 年度厚生科学研究費補助金 (健康科学総合研究事業)「地域におけるたばこ対策とその評価に関する研究」(主任研究者 大阪府立成人病センター 大島明 調査部長)分担研究報告書「大学におけるたばこ対策とその評価に関する研究 - 保健医療系大学生の喫煙行動とたばこに対する態度に関する実態調査」pp. 1-9.
- 4)三上洋, 伊藤美樹子, 足立登志子, 九津見雅美, 杉浦圭子, 仲下祐美子, 春木映子他(2002). 平成 13 年 東大阪市居宅介護サービスの未利用に関するアンケート調査 報告書.
- 5)三上洋, 伊藤美樹子, 足立登志子, 九津見雅美, 杉浦圭子, 仲下祐美子, 林知里, 春木映子他(2002). 平成 13 年 東大阪市居宅介護サービスの利用に関するアンケート調査 報告書.

## 2. 単行本 (著書, 翻訳本)

- 1)金川克子, 早川和生(監訳)(2002). コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際. 東京:医学書院.
- 2)早川和生, 武内美代子(2002). 双子の子育て. 朱鷺書房.
- 3)三上洋(2002). 血圧異常と血管系疾患 低血圧. 編集 日本老年医学会 改訂版 老年医学テキスト. 東京: (株)メジカルビュー社, 323-326.
- 4)三上洋, 荻原俊男(2002). 老年者高血圧治療と QOL. 編集 荻原俊男, 老年者高血圧の治療指針(三訂版). 東京:先端医学社, 244-253.
- 5)有馬志津子, 伊藤美樹子(2002). コミュニティアズパートナー 地域看護学の理論と実際: 第 1 章プライマリヘルスケア. 編集 エリザベス T. アンダーソン, ジュディス マクファーレイン. 監訳 金川克子, 早川和生. 東京:医学書院.

## 3. 学会発表 (抄録, Proceeding)

- 1)Shirai, F., Dohi, Y. (2002). Peripheral blood neutrophils permit staphylococcus epidermidis to survive and grow in themselves. The 6th Japan-Korea international symposium on microbiology, 74.
- 2)高島真美, 白井文恵, 土肥義胤(2002). MRSA と黄色ブドウ球菌の衣服繊維への接着性について. 第 28 回日本看護研究学会学術集会. 横浜.
- 3)白井文恵, 高島真美, 土肥義胤(2002). 黄色ブドウ球菌と表皮ブドウ球菌を食菌した白血球の状態の相違. 第 2 回日本感染看護学会学術集会. 相模原.

- 4)高島真美,白井文恵,土肥義胤(2002).種々の細菌の衣服繊維への接着性について.第2回日本感染看護学会学術集会.相模原.
- 5)Morimoto,K.,Miyamatu,N.,Tujita,S.,Takeshita,T.,Hayakawa,K.(2002).Do unhealthy lifestyles synergistically induce sick-building syndrome in workers. The 16th World Congress of Epidemiology.Montreal.
- 6)早川和生,末原則行,天羽幸子(2002).わが国における多胎児育児支援について.日本双生児研究学会.加古川.
- 7)小林葉子,早川和生,天羽幸子,坪井千賀,尾ノ井美由紀(2002).乳幼児期における双生児のTwin-talk現象発生と言語の遅れについて.第16回日本双生児研究学会.加古川.
- 8)菊地宏幸,早川和生,尾ノ井美由紀(2002).青年層における結核に関する知識水準と健康意識の動向.第5回日本地域看護学会.高知
- 9)大宮朋子,尾ノ井美由紀,早川和生(2002).ドメスティックバイオレンスにおける看護職者の意識.第5回日本地域看護学会.高知
- 10)月野木ルミ,早川和生,中西真人(2002).hTERT promoter を用いた癌特異的自殺遺伝子の作成.第18回日本DDS学会.札幌.
- 11)斯琴,早川和生,荻野敏,尾ノ井美由紀,加藤憲司,林知里,角紗綾果(2002).内モンゴルと日本における生活環境要因特性からみた青年期アレルギー症状の発症と予防保健活動の研究.第61回日本公衆衛生学会.埼玉.
- 12)宮松直美,浦美穂,早川和生(2002).ストレス認知評価と職業ストレスとの関連.第61回日本公衆衛生学会.埼玉.
- 13)尾ノ井美由紀,早川和生(2002).若年労働者の多い企業の健康指標の検討(第1報)-定期健診断結果から-,第5回日本地域看護学会.高知.
- 14)尾ノ井美由紀,早川和生(2002).若年労働者の多い健康指標の検討(第2報)-精神的健康度とソーシャルサポートの関連について-.第22回日本看護科学学会.東京.
- 15)仲下祐美子,足立登志子,谷川緑,有馬志津子,三上洋(2002).大学におけるたばこ対策とその評価に関する研究(第1報).第11回日本健康教育学会.東京.
- 16)足立登志子,仲下祐美子,谷川緑,有馬志津子,三上洋(2002).大学におけるたばこ対策とその評価に関する研究(第2報).第11回日本健康教育学会.東京.
- 17)仲下祐美子,足立登志子,杉浦圭子,九津見雅美,谷川緑,山平優子,有馬志津子,三上洋(2002).大学におけるたばこ対策(第1報)-保健医療系学生のたばこに対する態度への関連要因の検討.第61回日本公衆衛生学会総会.埼玉.
- 18)足立登志子,仲下祐美子,杉浦圭子,九津見雅美,谷川緑,山平優子,有馬志津子,三上洋(2002).大学におけるたばこ対策(第2報)-保健医療系学生の喫煙とその関連要因の検討.第61回日本公衆衛生学会総会.埼玉.
- 19)九津見雅美,足立登志子,杉浦圭子,仲下祐美子,伊藤美樹子,三上洋(2002).介護保険制度における利用者の主体的な選択に関連する要因の検討.第61回日本公衆衛生学会総会.埼玉.
- 20)林知里,小林京子,九津見雅美,足立登志子,杉浦圭子,仲下祐美子,尾ノ井美由紀,伊藤美樹子,三上洋(2002).介護保険制度に対する利用者の意識～介護保険施行後半年と1年半の調査～.第61回日本公衆衛生学会総会.埼玉.
- 21)杉浦圭子,九津見雅美,足立登志子,仲下祐美子,谷川緑,山平優子,伊藤美樹子,三上洋(2002).要介護認定者における在宅サービス利用者の実態調査.第61回日本公衆衛生学会総会.埼玉.
- 22)谷川緑,足立登志子,仲下祐美子,有馬志津子,三上洋(2002).看護大学生のストレスコーピングとその関連要因.第61回日本公衆衛生学会.埼玉.
- 23)九津見雅美,伊藤美樹子,三上洋(2002).痴呆の有無別にみた介護保険の在宅介護サービス利用の特徴と介護負担感との関係.第44回日本老年医学会学術集会.東京.
- 24)Masuo,K.,Mikami,H.,Ogihara,T.,Tuck,ML.(2002).The Duration of Obesity Contributes to a Resistance in Weight Loss Program. The American College of Cardiology 51st Annual Scientific Session. Atlanta.
- 25)Masuo,K.,Kawaguchi,H.,Mikami,H.,Ogihara,T.,Tuck,ML.(2002).Different sympathetics-leptin axis due to severity of obesity in human. The 2002 Asia Pacific Scientific Forum/42nd Annual Conference on Cardiovascular Disease Epidemiology and Prevention. Honolulu, Hawaii.
- 26)Masuo,K.,Mikami,H.,Ogihara,T.,Tuck,ML.(2002).Different mechanisms in weight loss-induced BP reduction between a low caloric diet and an aerobic exercise. The 2002 Asia Pacific Scientific Forum/42nd Annual Conference on Cardiovascular Disease Epidemiology and Prevention. Honolulu.
- 27)Masuo,K.,Kawaguchi,H.,Mikami,H.,Ogihara,T.,Tuck,ML.(2002).Weight Loss Has Stronger Protection in Stimulated Coagulation in Obesity

- Hypertension Than Pharmacological Therapies. The 14th World Congress of Cardiology. Sydney.
- 28) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, M.L. (2002). Relations Between Familial Hypertension and Familial Obesity in Obesity-related Hypertension (oral presentation). The 14th World Congress of Cardiology. Sydney.
- 29) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, M.L. (2002). Relations between familial obesity and familial hypertension to weight loss-induced blood pressure reduction. The Joint ISH/ESH Meeting. Prague.
- 30) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, M.L. (2002). Different mechanisms in weight loss-induced blood pressure reduction between a low caloric diet and an aerobic exercise. The Joint ISH/ESH Meeting. Prague.
- 31) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, M.L. (2002). Which factors prevent weight loss, of severity of obesity, familial obesity, BP level, familial hypertension, sympathetic overactivity or hyperinsulinemia. The 56th Annual Fall Conference and Scientific Sessions of the Council for High Blood Pressure Research in association with the Council on the Kidney in Cardiovascular Disease. Orlando, Florida.
- 32) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, M.L. (2002). Hyperinsulinemia plays an important role in weight gain-induced BP elevation in obese men. The 56th Annual Fall Conference and Scientific Sessions of the Council for High Blood Pressure Research in association with the Council on the Kidney in Cardiovascular Disease. Orlando, Florida.
- 33) Masuo, K., Mikami, H., Ogihara, T., Tuck, M.L. (2002). Uric acid level is one of the predictors of hypertension, obesity and obesity-related hypertension. The 56th Annual Fall Conference and Scientific Sessions of the Council for High Blood Pressure Research in association with the Council on the Kidney in Cardiovascular Disease. Orlando, Florida.
- 34) Masuo, K., Kawaguchi, H., Mikami, H., Tuck, M.L. (2002). Hyperinsulinemia Plays an Important Role in Weight Gain-induced BP Elevation in Obese Men. The Scientific Session, American Heart Association. Chicago.
- 35) Hayashi, C., Ito, M. (2002). The relationship between involvement in self-help group and empowerment of autistic children's mothers in Japan.

International Qualitative Health Research Conference. Banff, Canada.

- 36) 月野木ルミ, 川本雅子, 塩路なつ美, 松田智子, 山本晶子, 伊藤美樹子, 中村安秀 (2002). 海外渡航者の健康管理対策 - 国際協力 NGO/NPO 団体の実態調査と健康管理ハンフレット作成 - 国際ボランティア学会. 大阪.
- 37) 松田智子, 伊藤美樹子, 月野木ルミ, 中村安秀 (2002). 海外で活動する NGO/NPO の健康対策について. 日本公衆衛生学会. 埼玉.

#### 4. 研究助成

- 1) 土肥義胤 (2002). 抗結核キラー T リンパ球とリコンビナント BCG-DNA ワクチンの開発による新しい予防診断治療法. 平成 14 年度厚生科学研究費補助金, 新興再興感染症事業.
- 2) 土肥義胤 (2002). 健康人及び肺結核症患者の末梢血単球の各種サイトカインに対する応答性. 平成 14 年度腸管微生物研究会.
- 3) 早川和生 (代表) (2002). 双子老人 2,500 組の比較からみた老化及び寿命に関与する生活習慣・環境要因の研究. 科学研究費補助金, 基盤 B.
- 4) 早川和生 (代表) (2002). 乳幼時期における Twin-talk (宇宙語) 現象の派生予防とファミリーケアの研究. 科学研究費補助金, 萌芽的研究.
- 5) 三上洋 (分担研究者, 大島明班長) (2002). 大学におけるたばこ対策の実施とその評価に関する研究. 平成 14 年度厚生科学研究費補助金 (健康科学総合研究事業) 「地域におけるたばこ対策とその評価に関する研究」.
- 6) 伊藤美樹子 (2002). 障害児・者の家族の自立観と地域支援. 科学研究費補助金, 若手研究 B.
- 7) 伊藤美樹子 (代表: 山崎喜比古). 患者・障害者・家族・遺族のライフ把握の理論と方法に関する実証的総合研究. 科学研究費補助金, A.
- 8) 尾ノ井美由紀 (2001-2002). 在日中国人のヘルスニーズに関する研究 - 生活習慣と身体的・心理的健康度を通して -. 科学研究費補助金, 基盤 C(2).
- 9) 白井文恵 (2002-2003). 高齢者における結核再燃の実態調査及び再燃予防対策の検討. 文部省科学研究費補助金, 若手研究 B.

#### その他

- 1) 早川和生 (2002). 双子家庭と育児上の問題. 朝日新聞 2002 年 3 月 10 日朝刊.

## 病院看護部

## 誌上発表

- 1) 矢野幸子, 古庄礼子, 浪下和子(2002). これで予と対処は万全! 「脳神経外科・日常トラブル大予測」患者さん・家族とのかかわりにおけるリスク回避. ブレインナーシング, 18(6), 19-25.
- 2) 水谷綾子(2002). 手術室で取り組むセーフティマネジメントー看護師の立場からーカウント法を中心に. オペナシング, 17(5), 65-70.
- 3) 嶋田成美(2002). 心臓移植術 脳死者から心臓提供を受ける患者さんの看護. ナース専科 2, 22(2), 32-35.
- 4) 小寺郁子, 八田かずよ(2002). プリサプター必携脳神経外科 新人ナース指導育成マニュアル. ブレインナーシング 2002 年春季増刊, メディカル出版, 46-53, 84-93.
- 5) 池上景子, 植園法子, 團寛子, 中瀬尚長(2001). 感染の危険性の少ない刺入部のケア. 整形外科看護, 6(12), 24-29.
- 6) 水谷綾子, 秋吉愛子, 福井久美子(2002). 看護師の手術室クリニカルパス. 日総研, 78-91, 281-293, 307-309, 498-500.
- 7) 水谷綾子(2002). 手術室看護の実際 改訂第2版. 手術室での効率化とアメニティ・針刺し事故防止. メディカル出版, 181-186.
- 8) 三村美智子(2002). 手術室看護の実際 改訂第2版. 感染患者の取り扱い. メディカル出版, 177-180.
- 9) 赤根寿里. 手術室看護の実際 改訂第2版. 手術室でのモニター意識のある患者の看護. メディカル出版, 168-176.
- 10) 秋吉愛子(2002). 手術室看護の実際 改訂第2版. 手術体位. メディカル出版, 160-162.
- 11) 福井久美子(2002). 手術室看護の実際 改訂第2版. 術中管理と記録の実際. メディカル出版, 177-180.
- 12) 安藤昌代, 河村公子, 谷浦葉子, 柳川千里(2002). 大阪大学医学部附属病院看護部看護記録委員会. コンピューター・システム化に伴う看護診断関連因子の標準化の経緯. 大阪大学看護学雑誌, 8(1).
- 13) 浦田桜, 中山正俊, Arvilla, Stiffler(2001). 初療時の職業感染における看護婦の意識. 日本救急看護学会雑誌, 3(2), 45-51.
- 14) 中島和江, 桑田成規, 松村泰志, 八田かずよ, 大嶋比呂志, 武田裕(2001). 医療の質管理のためのシステムアプローチPlan・Do・Check・Actサイクルの実現例. 第21回医療情報学連合大会論文集, 102-103.
- 15) 三好越子(2002). 食道癌根治手術患者の周手術期における看護過程. JJNブックス ケーススタディ看護過程. 根拠に基づく看護診断から評価まで第2版, 45-149.

## 学会発表

- 1) 飯沼明子(2001). 家族員の入院が家族に及ぼす影響. 平成13年度近畿地区看護研究学会.
- 2) 田中理恵, 乗京亜依, 谷口真由子(2001). 血管造影検査後の長時間安静臥床による疼痛軽減の試み〜2種類の上敷マットに対する体圧と疼痛の比較分析〜. 平成13年度近畿地区看護研究学会.
- 3) 石川順子, 須藤昌子, 金原敦子, 池田佳代, 河野総江(2001). ICUにおけるベッドサイドの環境整備の徹底への取り組み. 第29回日本集中治療学会.
- 4) 岡部久子, 本井文子, 萩原さがみ(2001). 個室隔離中の骨髄移植患者のリハビリテーション 体調に合わせてリハビリテーション介入の検討. 第24回日本造血細胞移植学会.
- 5) 田代真紀, 原田貴子, 姫野理恵, 国吉浩美(2001). 腎移植後の患者のストレス要因に関する調査. 第35回日本腎移植臨床研究会.
- 6) 入江由美子, 小島操子, 田中京子(2001). 再発告知を受けて治療を受けるがん患者が直面する適応課題の特徴. 第16回日本がん看護学会.
- 7) 後藤美紀(2002). 病棟での経腸栄養剤の汚染に関する検討ー食器洗浄にともなう汚染ー. 第17回静脈経腸栄養学会.
- 8) 後藤美紀(2002). 食器洗浄用スポンジを介した経腸栄養剤への汚染に関する検討. 第6回CCM研究会.
- 9) 鍋谷佳子(2001). 外国の病院に学ぶ感染予防対策 イギリスにおけるオーディットとサーベイランスの考え方に対する考察. 第17回日本環境感染学会.
- 10) 池田成美, 鹿島泰子(2002). 重症患者家族への面会時の対応とニードについて. 第33回日本看護学会ー成人看護Ⅰー.
- 11) 梅田英子, 高廣咲子, 山本佳奈代, 伊藤憲子, 谷池雅子(2002). 小児病棟における内服援助一剤型の工夫を試みてー. 第33回日本看護学会ー小児看護ー.
- 12) 砂山陽子, 松本晴美, 山下悦子(2002). 埋め込み型補助人工心臓を装着した患者の看護ーシャワー浴時LVAD刺入部保護方法の検討ー. 第40回日本人工臓器学会.
- 13) 萩原さがみ, 山下悦子, 河野総江, 伊藤憲子(2002). 当院における心臓移植待機・移植後患者の管理体制の現状. 第50回日本心臓病学会.
- 14) 入江由美子, 越村利恵, 富永信子, 年梅英子, 福岡富子(2002). 卒後2年目看護師の継続教育における研修のありかたー参加型研修の試行よりー. 第33回日本看護学会ー看護教育ー.
- 15) 山本佳奈代, 梅田英子, 伊藤憲子(2002). 肥大型心筋症の一卵性双生児とその家族への看護. 第38回日本小児循環器学会.

- 16)吉本奈津子, 小林由佳(2002). 乳房切除患者の夫に対する退院指導とその効果. 第33回日本看護学会—成人看護Ⅱ—.
- 17)片山圭子(2002). 精神分裂病患者への服薬指導への看護介入～看護師による服薬指導が困難な要因と服薬指導モデルの試作～. 平成14年度日本精神科看護技術協会大阪支部看護研究発表会.
- 18)小川美穂, 太田悦子, 有田聡子(2002). 脳死下臓器移植手術を受けた患者様のSF-36を用いた退院後のQOL調査. 第38回日本移植学会.
- 19)濱田真理子, 谷口真由子(2002). 糖尿病患者における陰部掻痒感の発生状況と対処法の実態調査. 平成14年度近畿地区看護研究学会.
- 20)山田淑子, 斉藤恭子, 植園法子, 小巻正泰, 團寛子(2002). 人工股関節全置換術後のシャワー浴開始時期の検討. 第29回日本股関節学会.
- 21)松田未央(2002). 在宅高齢者の介護保険制度の認識から見た地域保健活動のあり方. 第33回日本看護学会—地域看護—.
- 22)池田佳世, 鹿島泰子(2002). ICUでのベッドサイドにおける業務改善前後の空気清浄度の評価. 平成14年度大阪府看護研究学会.
- 23)矢倉由紀(2002). 在宅療養に関する看護婦の意識と援助の実態. 第33回日本看護学会—地域看護—.
- 24)田墨恵子(2002). タキサン系薬剤による化学療法を受けている乳がん患者の副作用体験. 第22回日本看護科学学会.
- 25)谷浦葉子, 阿曾洋子(2002). 定量的脳波分析とVASによる清拭援助の安楽性の検証. 第22回日本看護科学学会.
- 26)内田志穂, 池上雅子(2002). 腹部インスリン自己注射部位の選択に関する実態調査. 第38.39回日本糖尿病学会近畿地方学会.
- 27)藤原優子(2002). 大阪大学学部附属病院における患者指導の現状と今後の課題—SMBGを中心に—. アークレイスタイルセミナー.
- 28)北風美保子, 野原孝子, 佃順子(2002). 自己点眼システムに用いた点眼確認用紙の有効性の検討. 第18回日本眼科看護研究会.
- 29)羽田容子, 草場明子, 千賀ゆかり, 水谷綾子, 嶋田成美, 中田精三, 梅下浩司, 門田守人(2002). 手術部看護業務に対する医師および看護師への意識調査. 第16回日本手術看護学会.
- 30)中島和江, 武田裕, 松村泰志, 大嶋比呂志, 桑田成規, 八田かずよ(2002). Hospital-wide approach to the prevention of medical adverse events using web-based incident reporting system. 2nd Asia Pacific Forum on Quality Improvement in

## Health Care.

- 31)中島和江, 武田裕, 松村泰志, 八田かずよ, 桑田成規, 張祁雁, 大嶋比呂志(2002). Medical Errorの発生プロセス及び根本的原因分析. 第22回医療情報学連合大会.
- 32)古賀輝美, 阿曾洋子, 高田喜代子, 八田かずよ(2001). 褥瘡の予防に対するドレッシング材貼用の実態に関する調査. 木村看護教育振興財団看護研究集録8, 51-61.

## **院内看護研究発表**

### **輪番制研究**

- 1)山下香織(2002). 下咽頭癌、舌癌の再建手術を受ける患者の看護—患者の自己決定を加えた術前オリエンテーション用紙の検討(耳鼻科病棟).
- 2)北村芳子(2002). 分娩育児部における助産婦活動の問題点の探索(分娩育児部).
- 3)堀久子(2002). 産科・婦人科病棟のプライマリ・ナースングに対する看護婦のストレス要因分析(産科・婦人科病棟).
- 4)岡田美紀, 三浦早苗, 内海朋子, 馬場みち代. 神経内科疾患患者のリハビリテーションに対する意欲と障害受容の関係(神経内科脳卒中皮膚科病棟).
- 5)金谷絵美, 野々脇敬子, 細川寛子. 消化器疾患術後創に使用するドレッシング材の比較検討—高吸収ポリマーパットとガーゼを比較して—(消化器呼吸器外科病棟).
- 6)北風美保子, 野原孝子, 佃順子. 自己点眼システムに用いた点眼確認用紙の有効性の検討(眼科病棟).
- 7)境佳代, 谷崎美紀, 渋谷絵津子. トランスマーバー表面の細菌調査と清拭方法の評価(手術部).
- 8)高廣咲子, 梅田英子, 山本佳奈代, 伊藤寧子, 大石雅子. 小児への内服援助—内服しにくい製剤のゼリー製剤への試作—(小児科病棟).
- 9)鍵谷真弓, 梅田瑞穂, 岡悦子. 安全な排泄を目指した看護用具の工夫—片麻痺・高次機能障害患者の身体障害者トイレでの自己排泄を支援する—(脳神経外科病棟).
- 10)平谷京子, 上田千鈴, 平木絵美子. 小児用ベッド使用時の転落事故防止に関する付き添い者の意識調査に基づいたパンフレットの作成(小児外科病棟).
- 11)池内友子, 冠木雅子. 緊急時対応シミュレーションの定期的実施による効果(放射線部).
- 12)池山理恵, 吉村栄里, 松前佐代子, 鍋谷佳子. 血液疾患で化学療法を受ける患者の口腔内保清に対する指導—ブラッシングの実際と意識の変化—(血液腫瘍内科病棟).
- 13)原田貴子, 田代真紀, 松本稔子, 姫野理恵. 腎移植患者の個室隔離における病室環境の改善への援助(泌尿器科病棟).
- 14)小林由佳, 吉本奈津子. 乳房切除患者の夫に対する退院指導とその効果(乳腺内分泌外科病棟).



15)松尾恵, 武智久恵, 柳川千里. POMS を用いた心疾患患者の気分の調査(循環器・腎臓内科病棟).

### 3 年目研修における看護研究

- 1)能芝範子(2002). ICU における心臓血管術後患者に対する離床の進め方. 術後経過との関連. 第1報(集中治療部).
- 2)雲山由美子(2002). 当院 ICU における食道癌根治術後患者の離床の現状(集中治療部).
- 3)金谷絵美(2002). 胃切除後の消化器症状と患者の包括的 QOL との関連の検討(消化器・呼吸器外科病棟).
- 4)植田真由美(2002). 手術に伴うチューブ挿入による患者の苦痛(消化器・呼吸器外科病棟).
- 5)小林由佳(2002). 乳房切除・腋下リンパ節郭清一期的乳房再建・広背筋皮弁患者のみ、リハビリ、セルフケアについての比較検討(乳腺内分泌外科・形成外科病棟).
- 6)細川寛子(2002). ストーマ造設を受ける患者への術前から退院までのかわり～ストーマケア指導による行動変容とボディイメージの変容～(消化器・呼吸器外科病棟).
- 7)花田幸子(2002). ガン告知されずに再発し死を迎えた青年に対するターミナル期の援助(小児科病棟).
- 8)小裕久美(2002). 小児の入院に付き添う母親のストレスの現状(小児科病棟).
- 9)井上奈央(2002). 処置に対する母親参加の意味(小児外科病棟).
- 10)山本梓(2002). 骨髄移植についてのインフォームドコンセントの効果～患者の心理の変化からみて～(特殊診断治療部).
- 11)木戸内美香(2002). 青年期悪性腫瘍患者の病状説明後の障害受容過程に関する研究～フィンの危機モデルを活用して～(整形外科病棟).
- 12)久寿米木章子(2002). 小児病棟における付き添い者の生活の現状(小児外科病棟).
- 13)河村有亜(2002). 小児の長期入院による母子分離を経験した母親の心理状態(分娩育児部).
- 14)荒川珠見(2002). 患者側からみたインフォームドコンセントに対する看護者の役割(消化器内科病棟).
- 15)井筒正子(2002). 入院診療計画書の受け止め方の実態－患者・医師・看護婦の立場から－(神経内科・皮膚科共通病棟).
- 16)中西礼奈(2002). 免疫力が低下した患者の感染予防に対する教育効果～改正したパンフレットを使用して～(血液腫瘍内科病棟).
- 17)渡邊友美(2002). 持続点滴中の事故予防行動から見た患者教育の有用性(放射線科・麻酔科・総合診療7フロア病棟).
- 18)村松由香里(2002). 腹部血管造影検査の患者用クリ

ティカルバスの効果～患者満足・理解度の視点からみた～(消化器外科病棟).

- 19)内田志穂(2002). 腹部インスリン自己注射の部位の選択に関する実態調査(内分泌・免疫アレルギー内科病棟).
- 20)濱田真理子(2002). 糖尿病患者における陰部搔痒感の発生状況と対処法の実態調査(内分泌・免疫アレルギー内科病棟).
- 21)谷瑞穂(2002). 禁煙を実行した生活習慣病患者の行動変容の過程と誘因(老年高血圧科・呼吸器内科病棟).
- 22)九矢容子(2002). 閉塞性動脈硬化症患者とその家族の喫煙に対する認識と思い(老年高血圧科・呼吸器内科病棟).
- 23)石堂たまき(2002)患者教育に関する心疾患患者のニーズ(循環器・腎臓内科病棟).
- 24)中村美香(2002). 心臓弁膜症患者への退院指導の検討(心臓血管外科・外科共通病棟).
- 25)砂山陽子(2002). LVAD を装着した患者のシャワー浴における刺入部保護の工夫(心臓血管外科・外科共通病棟).
- 26)森山良子(2002). 手背静脈内持続点滴中の小児におけるシーネ固定法の工夫～手指の運動機能・清潔保持に着目して～(小児外科病棟).
- 27)片山圭子(2002). 精神分裂病患者への服薬指導への看護介入～当病棟スタッフへのアンケート調査から導きだした服薬指導モデルの試作～(神経科・精神科病棟).
- 28)天羽美都(2002). 視力障害のある患者の見え方の個別性を確認するための用具を作成して(眼科病棟).
- 29)北尾梨紗(2002). 症状マネジメントモデルの活用効果～疼痛を主訴とした2事例の比較検討～(乳腺内分泌外科・形成外科病棟).
- 30)藤井君枝(2002). 看護用具として吸引瓶カバーの考案～貯留排液に対する感覚、着脱・観察を視点として～(耳鼻咽喉科病棟).
- 31)瀧本詠子(2002). TPN 挿入に伴う患者の不安・苦痛への援助～癒し系音楽導入を試みて～(消化器外科病棟).
- 32)松田京子(2002). 看護婦の役割に対する患者の認識(消化器内科病棟).
- 33)鈴木真紀(2002). 産科・婦人科病棟における患者・看護師関係に対する悩みについての調査(産科・婦人科病棟).
- 34)尾崎由美(2002). クリティカルバス使用によるTAEに必要な看護ケア項目の実施の変化(放射線科麻酔科総合診療部・7フロア病棟).
- 35)池田佳世(2002). ICU におけるベッドサイドの環境整備前後の空気清浄度の測定～パーティクルカウンター・浮遊